

〈論文〉

## 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の感情表現

— プラス評価, マイナス評価に注目して —

堀内 貴子

キーワード：感情表現, プラス評価, マイナス評価, 中間

### はじめに

言語学習時、母語では表現できるのに学習している言語ではどのように表現したらよいか分からない、という経験をもつことは誰にでもあるだろう。特に言語における感情表現というのは学習者が使えるようになるのは経験上、難しいようであり、母語話者の使用実態は非常に興味深い。

堀内(2007)では小学生の読書感想文を資料に感情表現の複雑化について調査を行った。その中で小学生・低学年(以下、「低学年」)、小学生・中学年(以下、「中学年」)、小学生・高学年(以下、「高学年」)、中学生、高校生と学年があがるごとに、表出する感情表現の持つ評価の割合が、「楽しい」「嬉しい」などのプラス評価より「悲しい」「辛い」などのマイナス評価をもつものが多くなるように感じた。また、日本語は否定的な表現が多い、ネガティブな表現が多いなどと聞くことがあるが、それは事実であるのか。感情表現の場合はどうなのか。また同じ日本語でも学習者の場合はどうなのかについて疑問を持った。本稿はその疑問を解決するためにプラス評価、マイナス評価という観点に着目し、日本語母語話者(以下、「母語話者」)と韓国人日本語学習者(以下、「韓国人学習者」)の作文を資料に調査を行った報告である。

### 1. 感情表現

前田(1993:4)は言語での感情表現について「感情語を考える場合の基本としては、感情語彙から出発すべきであろう」また、「慣用的な表現も問題となってくる。更に心というものは明確にしがたいものであるから、それを表すための比喩表現も多彩である」と述べている。言語における感情表現と聞いて、思い浮かぶのは感情形容詞や感情動詞と呼ばれるものであるが、それ以外を使用したものも多い。前田が述べるように比喩表現も多彩であり、すべてを明確に規定するのは難しい。本稿では先行研究の中から中村(1993)の『感情表現辞典』を参考に感情表現を選択する。し

かし、この辞典は文学作品で表出されたものを中心に扱っており、感情表現全てを網羅しているとは言いがたいようである。そこで筆者の判断から『感情表現辞典』に掲載されている言葉以外にも次の条件にあうものを感情表現とする。

#### (1) 感情形容詞 感情動詞

一般的に形容詞、動詞の中でも感情形容詞、感情動詞は人の感情を表現するものと定義されており、本研究の対象とする。

#### (2) 感情を表現するオノマトペ

オノマトペとは擬音語、擬声語、擬態語と呼ばれる語句のことである。これらについては多くの研究があるが、ここでは特に言及しない。『感情表現辞典』にもいくつか掲載されているが、実際の表出例には促音が入ったものなど多少表記に差があるものが見られる。例えば、「いらいらする」「いらだたい」などはあるが「いらっとする」は掲載されていない。「いらっ」の意味を考えると「いらいら」などと同じで腹立たしいさまを表していると感じられる。また、本研究では『感情表現辞典』に準じて、「いらっ」のように考えられるものについてもなるべく広く扱い感情表現として捉えることにする。

#### (3) 「気持ち」「気分」「心」「気」について表現

『日本国語大辞典 第二版』(2001)では感情について「物事に感じて起こる心持。気分。喜怒哀楽などの気持ち。」と定義する。「心持」というのは心の状態、気持ち、気分を指す言葉であるので、「気持ち」「気分」「心」「気」について表現しているものについても感情表現とする。

#### (4) その他

(1)～(3)でほぼ感情表現について網羅できるが、比喩的な表現などについては適宜確認をする。

## 2. 研究方法

### 2.1 資料

#### 2.1.1 母語話者

全国規模で行われる読書感想文コンクールの入選作品を集めた本が出版されている。その中で2004年度のコンクールの入選作品を集めた本を使用し、低学年・中学年・高学年・中学生・高校生の読書感想文からそれぞれ30人分を資料とする。この本には「自由読書」と「課題読書」の項目があり、今回使用した資料はほとんどが自由読書である。自由読書というのは「自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問わない。」であり、感想文の対象となる本は自由に投稿者である児童、生徒がそれぞれ選んだものであると考えられる。

- 全国学校図書館協議会編 (2005) 『考える読書 第50回青少年読書感想文  
全国コンクール入選作品 小学校低学年の部』(毎日新聞社)
- 全国学校図書館協議会編 (2005) 『考える読書 第50回青少年読書感想文  
全国コンクール入選作品 小学校中学年の部』(毎日新聞社)
- 全国学校図書館協議会編 (2005) 『考える読書 第50回青少年読書感想文  
全国コンクール入選作品 小学校高学年の部』(毎日新聞社)
- 全国学校図書館協議会編 (2005) 『考える読書 第50回青少年読書感想文  
全国コンクール入選作品 中学・高校・勤労青少年の部』(毎日新聞社)

### 2.1.2 韓国人学習者

韓国にある大学の授業(2004年度)で書かれた作文を使用する。全部で6名で、そのうち、2名は12タイトル分、4名は6タイトル分の作文を使用する。それぞれの作文のタイトルは抽象的なものではなく、自分に関係のあるものを選択した。また、「私の好きな映画」というようなすでにその作文のプラス、マイナスといった傾向がわかるようなものは避けた。

この学習者の日本語能力は3名(16編)が日本語能力試験1級、3名が2級である。

## 2.2 方法

資料から1で述べた定義に従い、感情表現を取り出し、集計する。さらにその感情表現についてプラス評価をもつもの、マイナス評価をもつもの、どちらともいえない中間のものに分け、学年によってどのような特徴があるのか、差はどうかについて考察する。

### 2.2.1 分類方法

『感情表現辞典』では感情表現を「喜・怒・哀・怖・恥・好・厭・昂・安・驚」の10種類の見出しに分類している。本稿ではこれをもとに「喜・好・安」をプラス評価、「昂・驚」を中間、「怒・哀・怖・恥・厭」をマイナス評価とした。しかし、文脈上全てがこれにあてはまらないので、飛田・浅田(1991)を参考に筆者の判断で、よい評価をもつ感情をプラス評価、悪い評価を持つ感情をマイナス評価とし、どちらでもないものを中間とした。また、プラス評価、マイナス評価の否定形の場合は中間とした。例えば、プラス評価である「楽しい」が否定されて、「楽しくない」になった場合は中間とした。

以上をまとめると次のようになる。

#### 分類例

プラス評価(喜・好・安)

例：うれしい たのしい なんとなくほっとする 心にじーんとあたたかい

## 中間（昂・驚）

例：おどろいた はっとした おそれず たのしくない

## マイナス評価（怒 哀 怖 恥 厭）

例：悲しい もやもやした気持ち なんだか不安になっていた いらいらさせられ

## 2.2.2 表出例

実際に表出された感情表現を以下に記す<sup>①</sup>。

## ① 低学年

- ・とてもきもちがよくなりました
- ・心がうきうきするような
- ・たのしいです
- ・すごくびっくりした
- ・こわかった
- ・かなしくなりました
- ・すごくつらくてなみだがでそうだったよ

## ② 中学年

- ・一番心がうれしくなる
- ・とっても大好きです
- ・ほっとして心があたかかくなりました
- ・びっくりした
- ・とても悲しい気持ちになりました
- ・大声でさげびたい気持ちです
- ・涙が止まらなくて胸のおくがキュンとしました

## ③ 高学年

- ・心の中が軽くなった気がした
- ・少しだけうれしくなった
- ・とても晴れ晴れとした気持ちだった
- ・おどろいた
- ・びっくりした
- ・とても怖くなり
- ・後悔する気持ち

## ④ 中学生

- ・深い感動
- ・喜びをかみしめる
- ・安堵感に包まれた
- ・驚きました
- ・はっとさせられた
- ・後ろめたい気持ち
- ・眠れないくらい腹を立てる

## ⑤ 高校生

- ・感情が嬉しさに染められました
- ・懐しく感じられる
- ・心の中が不思議とあたたかくなっていた
- ・愛する
- ・ハッとした
- ・怖くなくなった
- ・後悔した
- ・死ぬより苦しい心の痛みを感じた

## 3. 結果・考察

## 3.1 感情表現のもつ評価の割合

資料から感情表現を取り出し、プラス評価、中間、マイナス評価に分類し、割合を出し、母語話者と韓国人学習者、それぞれを図にした。

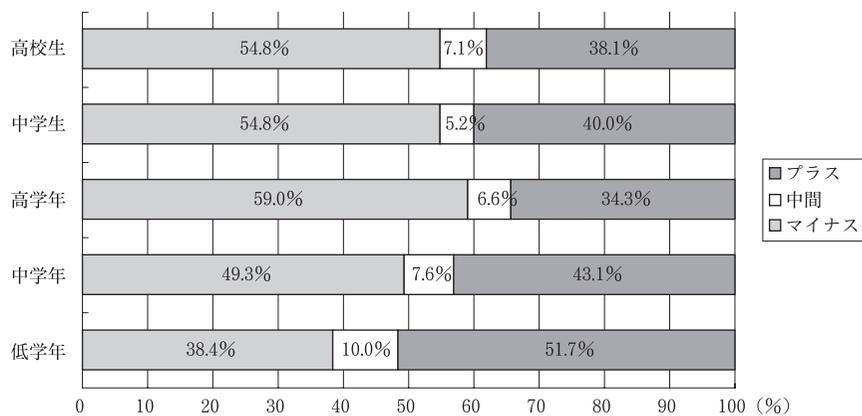


図1 母語話者の感情表現の学年ごとの変化

図1は母語話者の感情表現をプラス評価、中間、マイナス評価に分類し、割合を出したものである。低学年は唯一プラス評価が50%を超え、マイナス評価の割合のほうが少ない。中学年ではマイナス評価が約50%を占め、プラス評価よりも多い。高学年、中学生、高校生でもマイナス評価の方が多い。また、中間に位置するものは10%またはそれ以下であり、共通して少ない。

それぞれを比較すると、低学年から中学年、高学年となるにつれ、約10%ずつの割合でプラス評価が減り、マイナス評価が増えている。しかし、中学生になるとわずかだが高学年よりもプラス評価が増え、マイナス評価が減っている。また中学生と高校生はほとんど差がない。

これらのことから小学生は学年があがるごとに表出される感情表現が、プラス評価のものからマイナス評価のものへ移り変わっていくといえる。また、中学生、高校生とほとんど変化がないことから、プラス評価、マイナス評価という観点からみた感情表現は高学年から中学生あたりで安定するものと考えられる。

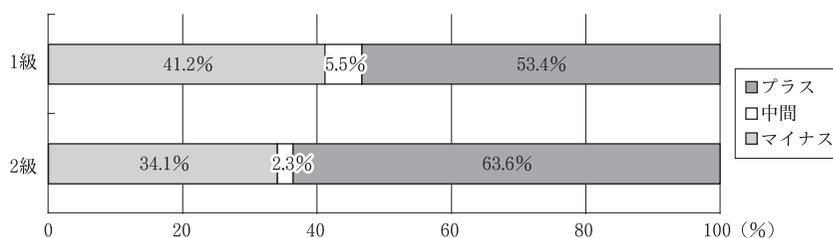


図2 韓国入学者の感情表現のレベル別の変化

図2は韓国入学者の感情表現をプラス評価、中間、マイナス評価に分類し、割合を出したものをレベルごとにわけたものである。1級の学習者と2級の学習者では1級の学習者のほうがマイナス評価の割合が多い。資料数が少ないので、一般化はできないが、日本語の感情表現は日本語のレベルがあがるにつれプラス評価よりもマイナス評価の割合が多くなるといえる。

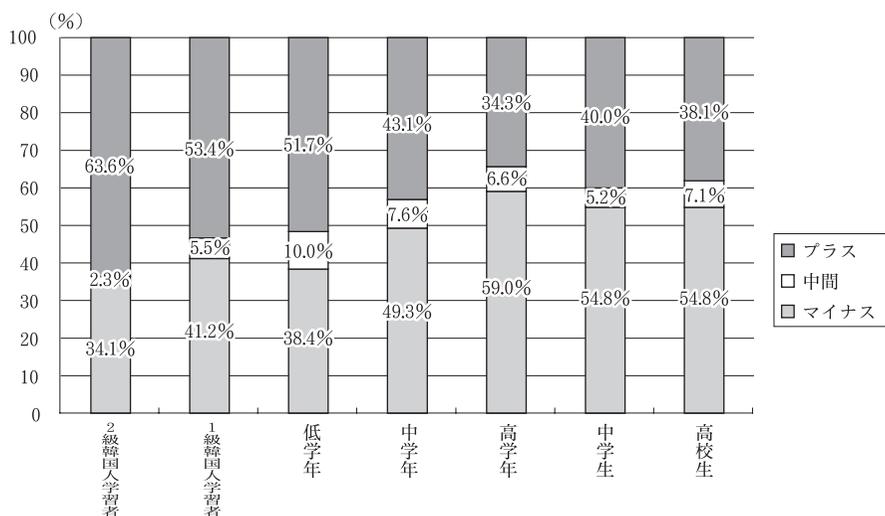


図3 母語話者と韓国入学者の感情表現のレベル別の変化

図3は母語話者と韓国人学習者をまとめたものである。比較すると、韓国人学習者は低学年よりむしろかではあるが、プラスの割合が多いことが分かる。全体を見ると、図の左側から2級韓国人学習者→1級韓国人学習者→低学年→中学年→高学年となだらかにプラスの割合が減り、マイナスの割合が増えている。学習者の資料が少ないのでこちらも一般化することは難しいが、日本語のレベルが1級、2級であっても、プラス評価、マイナス評価という視点から考えると母語話者には届いていないといえるのではないだろうか。

## おわりに

以上の調査から、次のことが分かった。

- ① プラス評価の感情表現がマイナス評価の感情表現より多く使われるのは、小学低学年のみである。
- ② 小学生では学年があがるごとに、プラス評価の感情表現が減少し、マイナス評価のものが増加する傾向があるが、中学生、高校生ではほとんど変化がない。
- ③ 韓国人学習者は母語話者と違い、プラス評価の感情表現が多い。
- ④ 韓国人学習者は日本語のレベルがあがるとプラス評価の感情表現が減り、マイナス評価の感情表現が増える。これは母語話者の学年による変化と同じ傾向である。

今回は韓国人学習者のみの調査であったが、今後は他の言語を母語とする学習者についても調査を行い、母語ごとの特徴などについて明らかにしたい。

また母語話者の表出に影響を与える可能性のある国語の教科書、学習者の表出に影響を与える可能性のある日本語のテキストについても調査を行い、日本語の感情表現の実態を明らかにしたい。

## 謝辞

本稿は日本語教育学会世界大会2008「第7回日本語教育国際研究大会」(2008年7月11日、釜山外国語大学校)で、口頭発表した内容に加筆・修正したものである。

口頭発表の場で、貴重なお意見を下さった方々、口頭発表、本稿執筆の際にご指導いただいた水谷信子教授に心よりお礼申し上げます。

## 〈注〉

- (1) 表出例はそれぞれ100例以上あり、全てを掲載することはできないので、ここでは任意の数例のみを挙げる。

## 参考文献

- 加藤安彦(1993)「国定読本の喜怒哀楽を表すことば——学年経過に伴う語の多様化——」『日本語学』12巻1号、明治書院、pp.71-84
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第I巻』くろしお出版

- 中村明（1993）『感情表現辞典』（榊東京堂出版）
- 飛田良文・浅田秀子（1991）『現代形容詞辞典』東京堂出版
- 堀内貴子（2007a）「日本語におけるオノマトペを含む感情表現の語句 —— 若年層の読書感想文から ——」  
『明海対照言語学論集』No. 8, pp. 65-71
- （2007b）「若年層の読書感想文における感情表現の語句について —— 複雑さの一考察 ——」『韓国  
日本学連合会第 5 回国際学術大会予稿集』pp. 428-432
- （2008）「日本語の感情表現の実態 —— プラス評価, マイナス評価に注目して ——」『日本語教育学  
世界大会 2008 第 7 回日本語教育国際研究大会予稿集』2, pp. 114-117
- 前田富禎（1993）「日本語の感情を表すことば」『日本語学』12 卷 1 号, 明治書院, pp. 4-13